A 155　調理済み食品・加工食品の利用に関する実態調査

大下女短大　○大下市子　　大阪成蹊女短大　山本知枝
山口大教育　　五島淑子

目的　スーパーマーケット・小売店の店頭に並べられる食品の数には目をみはるものがある。日常の食生活を営む中でそれらがどのように購入され、食卓にのせられているか、その利用状況を知ることは、今後の食生活を知る上でも重要なことと考えられる。そこで調理済み食品・加工食品を中心にその利用についてアンケート調査を行った。

方法　調査時期；昭和59年5・6月，9月．対象者；大阪府・広島県・山口県在住30・40代主婦．調査項目；生活概況，食事状況，調理済み食品・加工食品（惣菜13種・冷凍食品6種・レトルト食品3種・インスタント食品3種・持ち帰り食品5種　合計30種）の利用，イメージ調査．有効回答数1100部について地域別に分け検討した。

結果　①生活概況　家族人数平均4～5人．大阪87％，広島80％，山口61％が核家族．専業主婦は平均36％．有職者のうち．パート20％，公務員・会社員20％

②　食事状況　食事を作る時．55％が栄養のバランスを第1に気をつけており、夕食の調理時間は半数が30～60分である。主食はめし．副菜は和洋中平均に作られている．

③　調理済み食品・加工食品の利用　三府県でよく利用された食品（半数の人が．月に1～2回以上購入する食品）―袋入りラーメン・コロッケ（惣菜）・ぎょうざ（惣菜）．

コロッケ（惣菜）・パック入りうどんそば・肉ダンゴ（レトルト）・ハンバーガー（持ち帰り）・フライドチキン（持ち帰り）については、大阪・広島が山口に比べ高い利用率を示している．